

<http://www.shika-implant.org/>

インプラント  
ニュース



since 1972  
Japanese Society  
of Oral Implantology

第17号

平成25年2月10日発行

# Implant News No.17

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会報

発行人 渡邊 文彦 編集 公益社団法人 日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

HP : <http://www.shika-implant.org/> Eメールアドレス : [jsoi@peace.ocn.ne.jp](mailto:jsoi@peace.ocn.ne.jp)

【本号のトピックス】

新年のご挨拶, 第42回 学術大会報告, 各表彰者紹介 など

## 新年のご挨拶

公益社団法人日本口腔インプラント学会 理事長 渡邊文彦

新年明けましておめでとうございます。会員各位には日頃より、学会へのご理解とご尽力をいただきお礼申し上げます。さて本年度は、インプラント治療に対し国民の声を代表した国民生活センターからのインプラント治療に対する要望に応え、安全・安心、信頼できるインプラント治療を取り戻すべく表明、行動を行って行く年と思っております。インプラント治療に対する不安はインプラント治療への疑問となり、インプラント治療が高いQOLを提供するにもかかわらず、患者さんが急減するという不幸な状況です。口腔インプラント治療は日本国の歯科医師免許を有していれば誰でも行うことができます。これは不適切なインフォームドコンセントまた不適切な医療行為に起因しております。トラブルとなっているのは学会外の方もおられ、このことから公益社団法人日本口腔インプラント学会は学会員にはもちろんのこと、学会員以外の日本歯科医師会の会員また歯科医師に向け医療倫理、インプラント教育を行うこと、また適切なインプラント治療法やインプラント治療医の選択に関する基準等を、賢い患者さんとなっていただくべく国民に向け発信すること

が学会の役割であり、今まさにその時と考えます。口腔インプラント学の発展と適切な口腔インプラント治療を普及させることは、専門学会としての使命でもあります。この中で学会として進めております専門医制度は医療従事者の差別化ではなく、安心・安全で信頼できる標準的な口腔インプラント治療が行える人が専門医であり、歯科医師の多くの方がこれを習得していただきたい目標、基準です。

これには勿論、日本歯科医師会、日本歯科医学会、関連学会さらに厚生労働省との連携が必要です。日本口腔インプラント学会会員の多くが日本歯科医師会の会員であり、また歯科医師の10名のうち一人がインプラント治療を行っております。今回の口腔インプラント治療に対する問題は今後の歯科医療に係わる重要な問題であり、これを起点に歯科医師、歯科医療を国民の方々に理解していただく好機であるとも捉えています。我々日本口腔インプラント学会が他の機関や関連学会とどのように連携を取り、これを乗り越えていくかが鍵となります。年頭にあたり皆様方の一層のご支援とご理解をいただきたくお願い申し上げます。

# 第42回 日本口腔インプラント学会 学術大会開催報告

大会長 江藤隆徳  
実行委員長 馬場俊輔

第42回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会が9月21日(金)～23(日)の3日間、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で開催されました。メインテーマとして、安全・安心シリーズの最後を締めくくるべく『インプラント患者目線での安心医療とは』を掲げ、会員による一般口演、課題口演、ポスター発表の他、活発な討議が行われました。特別講演1では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構前審議役の重藤和弘氏に「レギュラトリーサイエンスの目指すもの」をご教示いただきました。教育委員会による「口腔インプラント(治療)臨床指針とその活用」、学術委員会による「患者目線からみた安心のインプラント治療とは」、また医療・社会保険委員会による「保険収載広範囲顎骨支持型補綴装置の治療指針と臨床」、さらには学術委員会による「チェックリストとインプラントカードの使い方」等は最新の話題として多くの聴衆が集まりました。「臨床の疑問に答える」は昨年同様、活気に溢れました。他にも若手インプラントロジストのためのワークショップ「インプラント治療の介入時期—その役割とタイミング—」や、午前午後と長丁場であった

「インプラント入門コース」は熱心な若手の先生方が会場を盛り上げてくれました。そして、顎顔面インプラント学会「インプラント医療事故への対応—術中出血—」、日本歯科補綴学会「インプラントオーバーデンチャーの臨床とエビデンス」、さらには日本CAD/CAM学会「CAD/CAMテクノロジーを活かしたインプラント治療の現状と課題」等々の合同シンポジウムも大変盛り上がりました。また、各種委員会主催のシンポジウム・セミナー、国際渉外委員会による国際セッション(ドイツインプラント学会・オーストラリアオッセオインテグレーション学会・米国インプラント学会)、関連学会合同シンポジウム、各種セミナー、歯科医療における情報提供の在り方に関する研究班による「インプラント治療における情報提供を考える」、女性インプラントロジスト育成のためのセミナー、専門医教育講座、専門歯科衛生士教育講座、専門歯科技工士教育講座、専門歯科衛生士セミナー、専門歯科技工士セミナー、ワールドサテライトセミナー、テーブルクリニック、ランチョンセミナー等々を開催し、各会場におきまして活発な討議が行われました。



理事長講演：渡邊文彦理事長



基調講演：川添堯彬前理事長



表彰式



特別講演2 市民公開講座：五木寛之氏

特筆すべきことに、専門歯科衛生士委員会による専門歯科衛生士教育講座「歯科インプラント治療に関わる術前口腔内環境のコントロールからメンテナンスまで」や、専門歯科衛生士セミナー「インプラント周囲炎をめぐる歯科衛生士の役割」は驚くほど盛況でありました。会場周囲の廊下の誘導も急遽手配が必要となり、専門歯科衛生士の強大なパワーに圧倒された次第です。歯科衛生士の皆さんには手狭な会場でご辛抱をおかけして申し訳ございませんでした。五木寛之氏による特別講演2・市民公開講座では、五木先生ご自身のかかりつけ歯科医院での出来事や、インプラント治療の体験談から、市民がインプラント治療を身近に感じることができるようなお話をいただきました。本学術大会におきましては準備段階から多くの企業のご支援をいただきまして、

大変助けていただきました。また、多くの協賛も頂戴することができましたことに心より感謝申し上げます。そして、学会役員の先生方、近畿北陸支部の研修施設の先生方、あるいはまた手弁当でスタッフとしてご協力いただいた非会員の先生方や、家族ぐるみでご支援いただいた先生方等、多くの皆様に助けていただいた学術大会でございました。

皆様のお蔭をもちまして、参加者は4,414名を数え、有意義な学術大会を開催することができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝し、ご参会いただきました会員および関係各位に衷心よりお礼申し上げます。本大会開催に際しまして、何かと行き届かない点多々あったかと存じますが、何卒ご寛容のほどお願い申し上げます。誠に有難うございました。

## 第43回 日本口腔インプラント学会学術大会のご案内

大会長 古谷野潔  
実行委員長 松下恭之

このたび、第43回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会を平成25年9月13日(金)・14日(土)・15日(日)の3日間、福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&ホールで開催することになりました。

今大会では、メインテーマとして「より適切で確実なインプラント治療へ」を掲げました。インプラント治療は、従来、インプラント医療従事者の立場から論じられてきましたが、近年では患者目線からインプラント治療を考える必要性が認識されてきました。前回の第42回大会では、「安全・安心」をキーワードに挙げ、患者目線での安心なインプラント治療について検討してまいりました。今回の第43回大会では、これまでの「安全・安心」を一歩進め、「より適切で確実な」インプラント治療を国民に提供することを目指すことといたしました。

プログラムについては、例年と同様に特別講演、基調講演、教育講演、委員会企画シンポジウム、国際セッション、医療従事者セミナー、関連学会シンポジウム、各種セミナー・ワークショップ、専門医教育講座、専門歯科衛生士教育講座、専門歯科技工士教育講座、テーブルクリニック、ランチョンセミナー、ワールドサテライトセミナー、ケースプレ

ゼンテーション、市民公開講座等々を予定しています。

このような企画の中で、「より適切で確実なインプラント治療」について検証するとともに、インプラント治療の最新情報やインプラント研究の最先端を議論するセッションを設け、インプラント治療の更なる発展を目指したいと考えています。

本学術大会が参加者の皆様にとって実り多いものになるよう最大限の努力を尽くしてまいりますので、多数の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。



福岡国際会議場

## 第42回 日本口腔インプラント学会学術大会表彰者紹介

### 優秀研究発表賞

岡崎洋平(広島大学大学院先端歯科補綴学研究室)  
「表面活性化ハイドロキシアパタイトに対する骨芽細胞の応答解析」

森 進太郎(日本大学松戸歯学部放射線学講座)  
「歯科インプラント埋入患者のMRI発熱に関する安全性の検討」

淵上 慧(東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来)  
「日本人におけるインプラント周囲炎の発症率に関する臨床学的検討」

代田達夫(昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学講座)  
「唇顎口蓋裂患者におけるインプラント治療の検討—インプラント周囲骨の評価—」

### デンツプライ賞

木村 達(大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴第二教室)  
「要介護高齢者におけるインプラント治療経験者の口腔内状況に関する疫学調査」

鶴見和久(東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学)  
「上顎洞底挙上術を併用したインプラント治療の予後」

藤井政樹(東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学)  
「吸収性ハイドロキシアパタイトファイバーと非吸収性ハイドロキシアパタイトパーティクルの骨増生の比較」

熱田 生(九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)  
「インシュリン様成長因子-Iを用いたインプラント周囲における上皮封鎖性の向上」

## 名誉会員紹介



香月 武先生

1937年2月11日生まれ

### 学歴

九州歯科大学卒業  
九州大学大学院卒業 医学博士

### 職歴等

1965年 九州大学医学部助手  
1967年 九州大学歯学部助手  
1972年 九州大学歯学部講師  
1978年 九州大学歯学部助教授  
1981年 佐賀医科大学歯科口腔外科学講座教授  
1981年 西ドイツ, ライン・ウェストファレン工科大学客員教授  
2002年 佐賀医科大学名誉教授

### 学会活動等

日本口腔インプラント学会指導医  
日本口腔外科学会終身指導医  
日本口腔外科学会名誉会員  
日本口腔科学会名誉会員

日本顎変形症学会名誉会員  
日本口蓋裂学会名誉会員  
ヨーロッパ顎顔面外科学会会員

表彰

2011年 第63回保健文化賞受賞  
2012年 第13回西日本国際財団アジア貢献賞  
受賞



鈴木和夫先生

1932年8月10日生まれ

学歴

東京歯科大学卒業

職歴

東京歯科大学解剖学教室 入局  
東京歯科大学解剖学教室 助教授  
岩手医科大学歯学部口腔組織学教室 教授  
松本歯科大学第二解剖学講座 教授  
松本歯科大学 名誉教授

学会活動等

日本解剖学会 評議員  
歯科基礎医学会 評議員  
歯科基礎医学会 理事  
歯科基礎医学会 理事長  
日本デンタルインプラント研究学会 理事  
日本口腔インプラント学会 理事  
日本口腔インプラント学会 常任理事  
日本口腔インプラント学会 会長就任

委員会活動

編集委員会 担当会長  
用語委員会

表彰

学会功労賞受賞

## 学会特別功労賞紹介



伊東隆利先生

1942年7月30日生まれ

学歴

1968年 日本大学歯学部卒業  
鹿児島大学大学院歯科口腔外科入学  
1972年 鹿児島大学大学院歯科口腔外科修了  
1973年 医学博士取得

職歴

1973年 鹿児島大学医学部歯科口腔外科学講  
座助手  
1975年 鹿児島大学医学部歯科口腔外科学講  
座講師  
医療法人伊東会伊東歯科医院(有床歯科施設)に  
勤務  
1983年 鹿児島大学歯学部非常勤講師  
1991年 医療法人伊東会理事長に就任  
1999年 九州歯科大学非常勤講師  
2004年 日本大学客員教授就任  
2009年 伊東歯科口腔病院に改組。理事長、  
院長に就任

学会活動等

日本口腔インプラント学会専門医・認定医  
(1993年)  
日本口腔インプラント学会指導医(1995年)

日本口腔インプラント学会認定講習会(九州インプラント研究会)講師  
1994年～現在に至る  
日本口腔インプラント学会認定講習会(京都インプラント研究所)講師  
1997年～現在に至る  
日本口腔インプラント学会認定講習会(臨床器材研究所)講師  
2005年～現在に至る  
常任理事(任意団体)(1997年～2000年・2003年～2005年)  
常務理事(法人)(2005年～2012年)

九州支部長(2008年～2011年)  
医療・社会保険委員会 委員長  
認定制度検討委員会副委員長  
教育委員会委員長  
会則委員会委員

#### 表彰

2000年 厚生大臣表彰  
2006年 日本口腔インプラント学会 学会特別論文賞  
2010年 日本歯科医学会会長賞受賞

## 平成24年度表彰者紹介

### 学会優秀論文賞



江黒 徹  
江黒歯科医院

論文名「チタンの親水性に及ぼす表面性状と表面化学修飾の影響」

この度は、平成24年度公益社団法人日本口腔インプラント学会優秀論文賞を受賞させていただき、誠に光栄に存じます。選考いただきました諸先生方に、心より感謝申し上げます。

私の所属いたします公益社団法人日本歯科先端技術研究所では、事業の一環としまして、各研究機関と提携を結び、共同研究をすすめております。受賞させていただきました本研究は、東京歯科大学口腔科学研究センター 吉成正雄教授室との共同研究にあたります。実験系の立案から投稿まで、ご指導を賜りました吉成正雄教授をはじめ、教室の先生方に篤く御礼を申し上げます。

近年のフィクスチャー表面性質に関する研究では、インプラント骨接触部へ骨芽細胞の早期接

着・増殖あるいは分化を促す環境を作りだすことを目的に、表面形状や表面性状に多くの工夫がなされており、とくに親水性を向上させる様々な手法が検討されています。本研究では各種表面処理がチタンのぬれ性に与える影響、および親水性を維持する保存条件の影響を明らかにすることを目的としました。

チタンにアルミナブラスト処理および酸処理を施した後、酸素プラズマ処理、紫外線照射処理、過酸化水素処理を施し、水に対するぬれ性(接触角)を測定するとともに、保存条件を変化させて親水性の持続性を検討しました。その結果、以下のような結論を得ることができました。

- 1.表面形状に関し、ブラスト処理後に酸処理を施した表面は超親水性を示しました。
- 2.表面性状に関し、酸素プラズマ処理、紫外線処理を施した試料は、すべての表面形状で超親水性を示しました。
- 3.上記親水性は大気中保存により急速に失われましたが、水中保存により親水性の退行を防止することができました。
- 4.上記の結果はチタン表面に存在する炭化水素量および表面水酸基に影響されました。
- 5.ブラスト処理と酸エッチングの併用は微細粗面の形状と炭化水素の分解が相乗的に働き超親水性を示すこと、また、酸素プラズマ処理および紫外線処理は炭化水素の分解と表面水酸基の形状により超親水性を示すことが明らかとなりました。

以上より、親水性を得るための表面形状と表面性状を制御する処理法、また親水性を持続する保存法が明らかとなりました。本研究の結果が、今後のインプラント臨床に有益な示唆となれば幸いです。そして、今後もさらなる研究を進めていけたらと考えております。

最後になりますが、共同研究推進にご尽力いただきました築瀬武史会長・奥森直人専務理事はじめ(公社)日本歯科先端技術研究所関係各位に心より謝意を表します。



木下 保  
木下歯科医院

論文名「抜歯窩における骨修復にカルボキシメチルキチンを応用した場合の微細血管構築と骨形成の実験的研究」

この度、平成24年度日本口腔インプラント学会優秀論文賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。また、ご選考いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

歯科インプラントの応用に際しては、インプラント埋入部の骨吸収・骨欠損が著しい場合には、歯槽骨増生が必要とされることが多く、骨造成に対して、自家骨やリン酸カルシウム系の人工生体材料が主に用いられています。また、最近ではコラーゲンやキチンなどの材料も注目されるようになってきています。

本研究では、カニなどの甲殻類の外骨格など自然界に多数存在するキチンをカルボキシメチル化し水溶性とすることで、生体親和性が高く、創傷治癒促進に効果があるとされるカルボキシメチルキチンのみを抜歯窩に填入し、抜歯窩内に生じる骨新生、特にカルボキシメチルキチンの血管および骨組織への影響を調査しました。

カニクイザルの抜歯窩に応用した場合の骨増生について、骨・微細血管鋳型標本の走査電顕画像

の解析を行った結果、術後1, 2週における実験群の血管新生は対象群と比べて旺盛であり、カルボキシメチルキチンが血管新生に有効であることが判明しました。また、術後4, 8, 12週における実験群の新生骨量の増加傾向は、対象群と比較してほぼ同様であり、カルボキシメチルキチンは抜歯窩の骨再生を阻害するものではないことが判明しました。以上のことから、本実験に用いたカルボキシメチルキチンの創傷治癒促進効果は旺盛な血管新生の結果として導かれることが示唆され、治癒早期のこの旺盛な血管新生効果を利用し、カルボキシメチルキチンに骨再生を促進させる成分を複合化することで、骨治癒促進に貢献が可能な医用材料になると考えられました。本研究が、効果的な骨治癒、骨再生の今後の研究発展に寄与できれば幸いです。

最後に、本研究に際し終始貴重なご指導とご協力を賜りました、大阪歯科大学解剖学講座の諏訪文彦教授、戸田伊紀講師ならびに教室の諸先生方に深く感謝申し上げます。

## 学会奨励論文賞



伊藤 学  
昭和大学歯学部  
高齢者歯科学講座

論文名「インプラント-骨界面を再現した力学解析法の検討：実験モデルと有限要素解析モデルの比較」

この度は平成24年度学会奨励論文賞を受賞させていただきました。誠にありがとうございます。御選考頂きました先生方に心より感謝申し上げます。

本論文でも使用した三次元有限要素解析法は、インプラントの応力分布を調べるツールとして盛んに研究されている分野です。しかし今までの三次元有限要素解析法を用いた報告では、骨とインプラントが完全に接触した三次元有限要素解析モ

デルが多く、また実際の生体内のインプラントと三次元有限要素解析モデルを比較している論文が少ないことが研究の出発点でした。この研究の最終的な目標としてインプラント埋入前のCTのデータもしくは埋入後でもCT撮影することでインプラントに負担の少ない(特定の部位に応力集中が起こらない)上部構造を設計・製作できないかという稚拙な発想から始まった研究でした。当時私には三次元有限要素解析の知識はなく、実際に研究を始めると自分の立てた目標がいかに遠大なものであったかと思知らされ、苦労を極めました。

本論文では三次元有限要素解析法で作製したインプラントと骨の接触条件を、実際のモデルと同様にすることで被圧変位量および応力分布が正確に反映された三次元有限要素解析モデルの作製が可能であるという当たり前の結果になりました。しかし実際、論文の別刷が刷り上がり、手に取った時の感動は未だに忘れられません。その論文で奨励論文賞までいただけることが出来、大学院の4年間やってきてよかったと思いました。

今回いただきました受賞を励みに、研究成果の一日でも早い臨床応用を目標にこれからも臨床や研究に精進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本論文の作成にあたり昭和大学高齢者歯科学講座・佐藤裕二教授および歯科理工学教室・藤島昭宏講師の御指導の賜物であることに加え、ご協力いただきました諸先生方にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。



関谷浩太郎  
日本大学松戸歯学部  
放射線学講座  
日本大学大学院  
松戸歯学研究科

論文名「64列MDCTを用いたインプラント術前検査における埋入予定部位の歯槽骨高径および幅径の検討」

この度は、平成24年度学会奨励論文賞を賜りまして、大変名誉ある賞に光栄に存じますとともに

に、ご選考下さいました先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

本論文では、口腔インプラント治療を希望された患者さん1056名、4123部位における術前CT検査時での欠損部歯槽骨の平均的な歯槽骨の高径および幅径を示しています。

口腔インプラント治療において、審美的でかつ機能的な長期安定性を獲得するためには、インプラント体周囲の十分な量の骨組織が必要不可欠です。より安全性と予知性の高い口腔インプラント治療を行うためには、埋入予定部位の欠損部歯槽骨の高径および幅径を考慮した治療計画が必要となります。しかしながら、本研究の結果からは、多くの日本人の症例で歯槽骨高径または幅径が不足する可能性が高いことが示唆されました。本論文が口腔インプラント治療を行われる先生方の臨床に貢献することを願っております。

最後となりました、本論文の作成にあたり、日本大学松戸歯学部放射線学講座 金田 隆 教授をはじめ、共同執筆者の諸先生方、また、種々の学会・施設にて出会いご教授頂いた全ての方々に深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床と研究に精進してまいりたいと思います。

## 優秀研究発表賞



十河基文  
大阪大学歯学部  
歯科補綴学第二教室

演題名「CTデータから金属アーティファクトを除去する再構成法の開発」

私が発表した内容は、CT撮影の際、検出器に映し出される投影データを元に歯科では邪魔な金属アーティファクトを除去する機能を持ち、さらに水をゼロ、空気を-1000にキャリブレーションすることで画像濃度値を医科用CTに類似したCT値として利用できる「コーンビーム再構成の開



発]です。紙面の関係上、ここでは金属アーティファクトの除去についてのみ掲載いたします。

■**模型実験**：4番と7番にクラウンを装着し、クラウンの間にセラミック球をテープで固定しました(図1)。模型のCT撮影を行い通常の再構成を行うと、クラウンの間を黒い金属アーティファクトが走りセラミック球は全く見えません(図2a～d)。しかし、今回開発した再構成では投影データ上で黒く映しだされる金属部分を認識するアルゴリズムが加味されているため、同じ投影データでも金属アーティファクトが除去され、見えなかったセラミック球が診えるようになりました(図2e～h)。

■**実際の臨床**：さらに実際の臨床画像で比較をすると、通常の再構成では(図4a～c)3番4番のポストの遠近心部は金属アーティファクトで黒く抜けており(図4b)、5番のポンティック直下の骨頂も金属アーティファクトで見えませんが(図4c)、しかし今回の開発した再構成を行うと3番4番のポスト横の近遠心の歯質が診え(図4e)、さらに5番の骨頂部も再現されるようになりました(図4f)。



図1

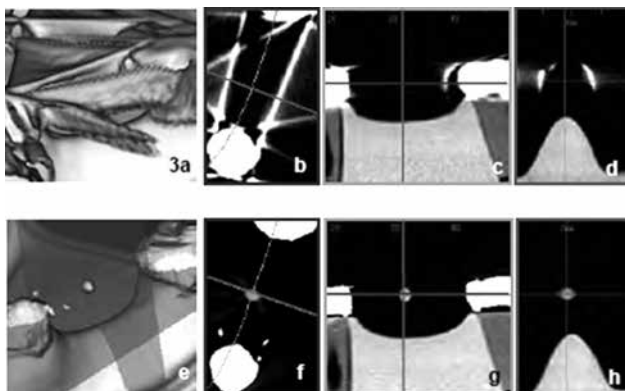


図2

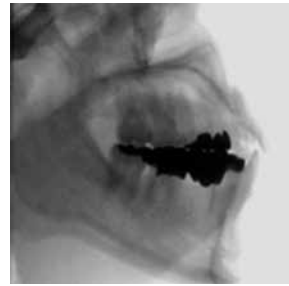


図3

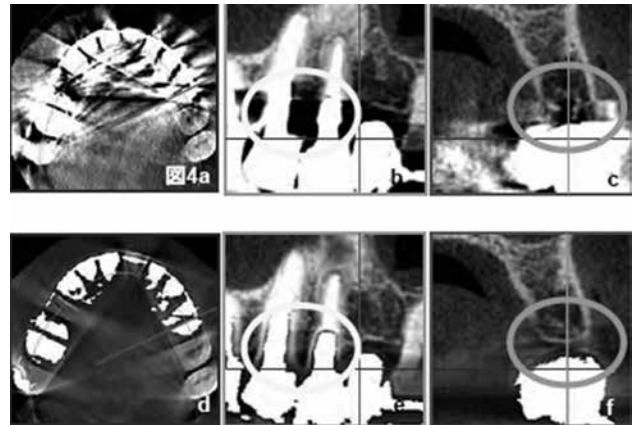


図4



木村 裕  
東京歯科大学  
口腔科学研究センター

演題名「ジルコニアと純チタンディスク上で培養した口腔上皮細胞の初期接着」

この度は第41回日本口腔インプラント学会学術大会にて優秀研究発表賞を賜り、大変光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました諸先生方に改めて深謝いたします。

審美性を要求される部分のインプラント治療においてチタンの金属色により不十分なケースが存在します。そこで、口腔内の審美的な部分に有効であると考えられ、歯科用インプラント材料としてジルコニアの応用が行われていますが、上皮細胞のジルコニアへの生物学的応答、特に上皮細胞の接着を純チタンと比較した研究は報告されて

いませんでした。そこで、本研究はヒト口腔角化細胞のジルコニアおよびチタンへの初期接着を *in vitro* で比較検討しました。接着細胞数、接着細胞の代謝活性、接着細胞の経時的形態変化、上皮細胞の接着構造であるヘミデスモゾームの構成タンパクである laminin  $\gamma$  2, integrin  $\beta$  4 の mRNA の発現とタンパク発現量の定量, laminin  $\gamma$  2, integrin  $\beta$  4 の分布について検索しました。

検索した結果、インプラント材料としてジルコニアは純チタンと比較し、接着初期において同等またはごく初期において若干低い生物学的応答が示されました。このことから、上皮細胞の初期接着という観点では、ジルコニアはチタンと同様にインプラント材料として使用できることを示唆することができました。

今回受賞させていただきましたことを励みにこれからも精進してまいりたいと思います。最後に、本研究の機会を与えて下さり、ご指導とご校閲を賜りました、東京歯科大学臨床検査病理学講座 教授 井上 孝 先生、准教授 松坂 賢一 先生、東京歯科大学口腔科学研究センター 教授 吉成 正雄 先生、そして関係者各位にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



石田雄一  
徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
口腔顎顔面補綴学分野

演題名「インプラント暫間上部構造による最終上部構造の推定：前装部破損と隣接面コンタクトの離開」

この度は、第41回日本口腔インプラント学会学術大会において優秀研究発表賞を受賞させていただきました、心より感謝申し上げます。

今日では、インプラント治療は大変予知性の高い治療となりましたが、長期経過症例においては、前装部の破損や隣接面コンタクトの離開などに代表されるような上部構造に起因する問題に遭遇する機会が多々あります。こうした問題をあらかじめ

客観的に予測できないのだろうか、もし可能であれば上部構造製作時にこれらのリスクを回避できるような設計を付与することができるのではないのだろうか、このような思いが本研究のはじまりでした。上部構造に問題を発生させる要因としては、大きく分けると患者側の要因、術者および歯科技工士側の要因が挙げられます。これらの要因には多数の因子が存在し、さらには複雑に関与し合っていることが推測されます。こうした複雑な条件下にある上部構造の予後を推測する手段として、我々は暫間上部構造に注目しました。暫間上部構造は主に即時重合レジンによって製作されるため、削りやすく盛り足しやすい特徴を持っていますが、逆に言えば磨り減りやすく壊れやすいとも言えます。つまり、最終上部構造に問題を発生させるような要因が、短期間に暫間上部構造に集積され、暫間上部構造の変化として現れるのではないかと考えたのです。これまでも最終上部構造の設計を決める際には、暫間上部構造の状態が参考として用いられてきましたが、歯科医や歯科技工士の経験に頼るところが大きく、客観的な指標は存在しませんでした。今回の研究によって、最終上部構造に生じる前装部の破損や隣接面コンタクトの離開の特徴を把握することができ、暫間上部構造では隣接面コンタクトの離開の推定は困難であるが、前装部の破損の推定には有効であることが示唆されました。今後は、さらに被験者数や測定項目を増やし、誰でも簡単にできる長期にわたって安定する最終上部構造の設計指標を作成したいと考えています。

最後になりましたが、本研究を行うにあたり御指導いただきました徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面補綴学分野、市川哲雄教授および、友竹偉則講師、咬合管理学分野、重本修伺助教をはじめとする、本研究にご協力いただきました全ての先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



松尾 朗  
東京医科大学  
口腔外科学分野

演題名：「ビスホスホネート投与日本人乳癌患者におけるインプラント治療に関する臨床的研究」

この度は、平成23年度学会優秀研究発表賞を賜り、大変名誉ある賞に光栄に存じますとともに、御選考いただきました先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

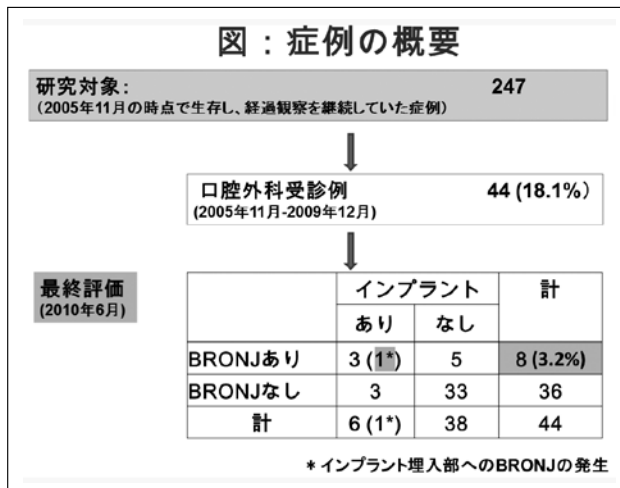
ビスフォスフォネート(以下BPと略す)は骨粗鬆症や癌の骨転移などに対する標準治療薬として幅広く使用されておりますが、関連顎骨壊死(以下BRONJと略す)が世界的な問題となっております。抜歯など外科処置や歯周病はBRONJの極めて高いリスク要因となるため、インプラントは埋入・周囲炎の両面で注意が必要ですが、エビデンスの高い研究は極めて少数です。

本研究は、東京医科大学病院で口腔外科と乳腺科が共同して施行している、静注BP投与乳癌患者に対する顎骨壊死予防・早期発見プログラムを基に行われ、BRONJの粗発生率は3.2%で、口腔精査施行44例中6名(13.6%)にインプラントが装着されておりました(図)。インプラント部にBRONJが発現した1例はインプラントを含む辺縁切除を施行しましたが、残り5例は経過観察期間中にインプラント部へのBRONJの発生は認められませんでした。年齢、投与期間、口腔衛生状態、インプラント埋入など複数のリスクファクターについてのlogistic回帰分析では、いずれもBRONJ発生の有意なリスク要因とは言えず、さらに、BRONJ発生部でのCT値の上昇、骨形態計測による顎骨構造の強化などの所見が得られました。これらの研究から、多数の静注BP投与患者にインプラントが埋入されており、また、インプラント周囲炎を起こした場合、漫然と経過観察せず早めに除去を検討する必要があることが示されたと思います。

最後に、一般の先生方へのメッセージとして、本研究の結果からBP投与患者にインプラントを埋入してもかまわないと短絡的に結論付けしないでください。確かにインプラントは埋入可能かもしれませんが、BPは一度開始すると投与期間は長期にわたり最終的な蓄積量は膨大なものになります。その間、確実に全身のQOLは低下し、その管理は非常に難しいものとなります。ですから、静注BP投与患者の新たなインプラント治療は基本的に避

けた方が安全と思われれます。

医学部病院の口腔外科という特性を生かし、今後もインプラント治療と全身状態の関連についてさらに研究を進め、微力ながらもインプラント学に貢献していく所存です。



## デンツプライ賞



山内健介  
九州歯科大学  
顎顔面外科学講座  
形態機能再建学分野

演題名「形状記憶合金メッシュを用いた骨膜伸展骨形成法の検討」

この度は、第41回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、心より感謝申し上げます。また、ご選考くださいました先生方、学会会員の皆様方には心より感謝申し上げます。

今回受賞したテーマである、形状記憶合金メッシュを用いた骨膜伸展骨形成法は、これまで指導いただきました高橋 哲教授が取り組んで来られた水平的骨延長のチタンメッシュが基となった研究でありまして、骨延長の欠点である緩徐で手動的な伸展刺激を、装置である形状記憶合金

メッシュそのものが有する形態回復力という力でスペースメイキングをするという新たな骨造成法の取り組みとなります。これまでの骨延長法では、伸展刺激を与えるために粘膜または皮膚を貫通して出てくるロッドの存在が欠かせず、そのロッドからの感染、装置露出が予後不良因子となっておりました。今回われわれは0.275mmという薄さの弯曲したNiTi合金メッシュを作製し、ラビット頭頂部の骨膜下に挿入、骨面に圧着、一定の待機期間の後に形態回復力を作動させ、骨膜下間隙を形成、骨を誘導することを証明しました。本法は人工骨や再生材料を移植する、いわゆる移植医療とは異なり、骨延長法に類似する生体が潜在的に有する治癒能力を利用した再生医療の一種と考えられます。この新生骨の証明により、骨延長法では必要とされていた骨切りによる移動骨片の形成という侵襲を回避できることで、患者・術者負担を大幅に軽減して骨造成を実現することが可能であると考えられました。この研究報告を第一報として、さらなる安定した結果が得られるために様々な追加実験に取り組んでいるところです。今後の学術大会で報告できるよう努めて参りたいと思います。最後に、研究に際しご指導いただきました高橋 哲教授、動物実験を共に行った九州歯科大学形態機能再建学分野の諸先生方に心より深く感謝申し上げます。また、材料に関してご協力いただきました東北大学歯学イノベーションリエゾンセンターの金高弘恭准教授にもこの場をお借りしまして御礼申し上げます。



山西康文  
大阪大学大学院歯学研究科  
歯科補綴学第一教室

演題名「アバットメント連結様式の差異がアバットメントスクリューと周囲骨に及ぼす力学的影響の解析」

この度は、第41回日本口腔インプラント学会学

術大会におきまして、名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。

これまで、インプラント頸部周囲の骨吸収の原因のひとつが咬合力による負担過重であると考えられる研究者らによって、有限要素法を用いた応力解析が盛んに行われてきました。しかし、それらのほとんどは2次元のモデルを用いた解析であり、3次元であっても、インプラント体とアバットメントが一体型となった非常に簡略化されたモデルでの研究でした。これは、解析モデルを精密に再現するとデータ量が膨大になり、解析が破綻する可能性が高くなるためです。そこでわれわれは、CADソフトを用いて解析モデルを一から設計する(図)ことで、データ量の大幅な削減に成功し、この精密かつ現実に近いモデルで有限要素解析を行うことにより、インプラントデザインの違いが周囲骨に発生する応力とアバットメントのマイクロムーブメントに及ぼす影響を検討しました。そして、周囲骨に加わる von Mises 応力は、エクスターナルジョイント<インターナルジョイント<コニカルジョイントの順に大きくなり、マイクロムーブメントは、エクスターナルジョイント>インターナルジョイント>コニカルジョイントの順に小さくなることを明らかにしました。これらの結果は、骨吸収の原因とされる過重負担やマイクロムーブメントを制御するためには、インプラントの選択において、その構造や特徴を十分に考慮する必要のあることを示唆しています。

本研究は現在も継続中であり、今後も補綴歯科医の視点から研究を行い、その結果を臨床に還元していきたいと思っております。最後に、本研究をご指導いただきました、大阪大学大学院歯学研究科歯科補綴学第一教室の矢谷博文教授、中野環助教、そして、歯科理工学教室の今里 聡教授、山口 哲助教、また、両教室の先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

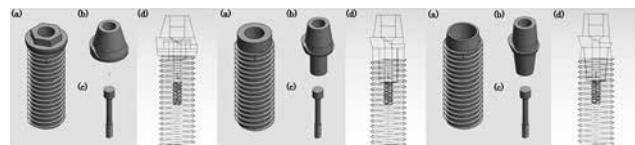


図. 構築した解析モデル(左からエクスターナルジョイント、インターナルジョイント、コニカルジョイント): (a) インプラント体, (b) アバットメント, (c) アバットメントスクリュー, (d) 連結図



土永浩史  
東京医科歯科大学大学院  
医歯学総合研究科  
顎顔面外科学分野

演題名「細菌検査を用いたインプラント治療の予後評価に関する後ろ向き症例集積研究」

この度は、第41回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、大変光栄に存じ、心より感謝申し上げます。また、御選考いただきました先生方、学会の皆様方に深謝いたします。

本研究は、歯周炎および非歯周炎患者を対象としたインプラント治療前から治療後のメンテナンス期に至るまでの歯周病原性細菌検出の有無とインプラント予後の関連性について、後ろ向きに症例集積データを評価しました。この結果、インプラント埋入前の残存歯に歯周病原性細菌が認められると、埋入後のインプラント体にも細菌が伝播する可能性が高くなり、さらにインプラント周囲炎においては、歯周病原性細菌が高率で検出され、残存歯から伝播した細菌がインプラント体に持続的に感染している可能性が示唆されました。また、歯周病原性細菌に持続的に感染していると、インプラント周囲炎治療後の臨床的改善率がより低下する可能性が示唆されました。

メンテナンスでのインプラント周囲炎の診断基準を確定するために、上部補綴後の臨床診査とX線診査を定期的に行う必要がありますが、インプラント周囲組織は、天然歯と比較してプロービングやプロービング時の出血による診査だけでは、その病態を正しく評価できないため、プロービングデプスの深化が認められた場合には、細菌検査の併用で診断の精度が向上することが報告されています。また、インプラント治療後のサポータビペリオドンタルセラピー期でのリスク診断、それに応じたリコール間隔の決定、インプラント治療前に歯周治療の必要のある患者の選択、そしてインプラント周囲炎に対して抗菌療法を行う場合などに細菌

検査は有用であると考えられています。

本研究は現在進行中の「重度歯周疾患のインプラント長期予後への影響に関する前向き疫学研究」の予備的研究であり、さらなる研究を積み上げていきたいと考えています。

最後に本研究に際し、非常にご多忙にもかかわらずご指導いただいた三辺正人先生、児玉利朗先生、鶴見大学歯学部探索歯学講座 野村義明准教授にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



佐々木穂高  
東京歯科大学  
口腔インプラント学講座

演題名 「閉経後女性における骨代謝マーカー検査とインプラント周囲骨吸収の比較検討」

この度は、第41回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして名誉あるデンツプライ賞を受賞させていただき、心より感謝申し上げます。また、御選考いただきました先生方、学会の皆様方には心より感謝申し上げます。

近年、インプラント治療患者層の高齢化に伴い骨粗鬆症によるリスクファクターの明確化が重要な課題となっていると考えられます。東京歯科大学口腔インプラント科で、術前検査の一つとして行っている骨代謝マーカー検査には、骨芽細胞の活性などが指標となる骨形成マーカーと、骨基質の分解産物や破骨細胞の活性が指標となる骨吸収マーカーがあり、将来的な骨粗鬆症の発症を予測するのに有効であることが知られています。本研究は、骨代謝マーカー検査が、インプラント周囲骨の経時的な変化を予測するのに有用であるかを検討致しました。

対象者は、骨粗鬆症の発症リスクが高い閉経後女性(平均年齢:59.1歳)とし、骨形成マーカーである骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)、オステオカルシン(OC)、骨吸収マーカーであるI型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)、デオキ

シピリジノリン (DPD) の計4項目を用いて①正常群②予備群③異常群と3群に分類しました。インプラント周囲骨吸収量は、埋入時を基準とし埋入後6ヶ月、12ヶ月、24ヶ月、36ヶ月における経時的変化を計測しました。骨代謝マーカーによる群分けと各期間の骨吸収量との比較では、埋入後12ヶ月で正常群、予備群より異常群 (0.91mm) は有為に骨吸収がみられました。各骨代謝マーカーと骨吸収量の相関性の検討では、DPDでは埋入12ヶ月以降に正の相関 ( $r=0.32$ ) がみられました。さらに従属変数：埋入後12ヶ月の骨吸収量に対し、独立変数：DPD、埋入顎骨、インプラント長径、アバットメント連結機構を設定し多重線形回帰分析を行ったところ、インプラント長径に次い

でDPDが骨吸収の予測に影響をすることが示されました。以上のことから、骨吸収マーカー (DPD) は早期における閉経後女性のインプラント周囲骨の吸収を予測・評価するのに有用であることが示唆されました。今後は、サンプル数を増加していくとともに補綴学的な因子を加えていくことで、骨代謝マーカーによるインプラント治療のリスク評価への有用性を明らかにしていきたいと思えます。

最後に本研究における成果は、ご指導をいただきました矢島安朝教授ならびにご助力をいただきました東京歯科大学口腔インプラント科の先生方の賜物であり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

## 第11回 口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会報告

教育委員会 矢島安朝

平成24年8月19日(日)日本歯科大学富士見ホールにおきまして、日本歯科大学新潟生命歯学部 廣安一彦教育委員会委員のもとで、第11回専門医臨床技術講習会が開催されました。当日は、猛暑の中、全国各地から141名の先生方のご参加をいただき、朝早くから夕方遅くまで、熱心に講演をお聞きいただきました。改めて、参加いただいた先生方の学習意欲に敬意を表したいと思います。

今回の講習会のメインテーマは、第7回から継続している「適切な診断および安全・安心のインプラント治療」であり、特に「多数歯欠損」をキーワードとして各演者から講演が行われました。午前中は、朝日大学歯学部の永原國央先生から「歯科インプラント治療における全身疾患のリスクとその対応」と題して、多数歯欠損の患者は高齢者が多いため、全身疾患のリスクは高く、手術危険度と共に、インプラント失敗のリスクが上がることを各疾患別に示されました。2番目には、日本大学松戸歯学部の加藤仁夫先生から「インプラント周囲炎を考える」と題して、最も頻度の高いトラブルであるインプラント周囲炎に対して、診断、治療、予防と共に現在の問題点についても報告いただきました。

3番目に、東京歯科大学の関根秀志先生から、「多数歯欠損症例へのインプラント治療適用時の注意点」と題して、診断の重要性と共に、15年以上の長期経過症例から見えてきた診断時へのフィードバック等、今後のインプラント治療の方向性についても提言いただきました。

午後は、北海道医療大学歯学部の廣瀬由紀人先生から、「多数歯欠損症例のプロビジョナルと上部構造の作製」と題して、基本的な治療の流れやインプラントのポジショニングの重要性などについてお話しいただきました。次に、大阪大学歯学部の前田芳信先生から、「多数歯欠損症例における咬合採得の重要性と可撤性上部構造適応の原則」と題して、多数歯欠損症例における咬合採得の重要性を多くの臨床症例から説明していただき、さらにZarbらの提唱した生物学的コスト (Biological Cost) についても報告していただきました。最後は、福岡歯科大学の松浦正朗先生から、「多数歯欠損症例のインプラント手術におけるリスクと対応」と題して、様々なインプラント関連手術における局所的リスクファクターを明確に示していただきました。

どの講演も、科学的根拠となっている論文名をスライド上に示していただき、専門医講習会

にふさわしい、大変アカデミックな、内容の濃いご講演となりました。その後、40分ほどの総合討論が行われ、認定委員会からの受講単位の説明の後、修了式が執り行われ、17時30分に

は無事、盛会のうちに第11回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会が終了の運びとなりました。



## 第22回 日本歯科医学会・分科会シンポジウム報告

大阪歯科大学 江藤隆徳

日 時：平成24年11月10日(土)9時～12時  
場 所：インテックス大阪 2号館 ブースA  
テーマ：「安全,安心そして確実なインプラント治療を行うには」

第22回日本歯科医学会総会が、大阪国際会議場をメイン会場として11月9日から11日の日程で、「お口の健康 全身元気—各世代の最新歯科治療—」をメインテーマに開催されました。同時に、日本歯科医学会の分科会シンポジウムがインテックス大阪2号館で開催され、22分科会の参加があり日本口腔インプラント学会は11月10日(土)、9時から12時まで担当しました。

患者にとってどの医療機関でも安心して安全なインプラント治療が受けられるにはどのようにすればよいかということで、「安全,安心そして確実なインプラント治療を行うには」をメインテーマに、以下の5名の講師の方々によるシンポジウム形式で行いました。

① 松浦正朗先生(福岡歯科大学口腔医療センター)は「全身状態から見た診査診断」をテーマに、主に高血圧症、糖尿病、骨粗鬆症について講演されました。高血圧症患者では脳出血、クモ膜下出血、狭心症、心筋梗塞などが起こる可能性があり、術中に起こる問題として十分注意が必要であるこ



と、Ⅱ型糖尿病患者では、血糖値がコントロールされていないと術後感染や創傷治癒不全を起こしやすく十分な感染予防対策を行うこと、骨粗鬆症では投与するビスフォスフォネート製剤が問題で、投与中は口腔内状態を清潔に保つなど、全身状態とインプラント治療について講演されました。

② 榎本紘昭先生(新潟県三条市開業, 日本歯科大学新潟生命歯学部臨床教授)は「咬合から見た欠損歯列の容態とインプラント治療」をテーマに、すれ違い咬合に対して、インプラント治療により咬合と顔貌の回復を図った多くの症例を示されました。左右のすれ違い状態の向上を図るには、アンテリアガイドと臼歯部の咬合支持の確立が重要で、ガイドの確立と咬合支持の確立が共存

することができれば歯列は長期的に安定するなど、すれ違い咬合症例に対して咬合支持とガイドの重要性を講演されました。

③ 菅井敏郎先生(東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来臨床教授, 医療法人UC会)は「インプラント手術の難易度: 難しい症例, 比較的簡単な症例—外科的側面から見たSAC分類—」をテーマに外科的側面から講演されました。術者の経験, スキル, 判断, 診断能力をもって患者の歯科的・医科的・解剖学的リスクファクターおよび喫煙の有無などを診査し, 十分把握したうえで治療計画を立案, 治療のアプローチを行うこと, 治療の難易度を把握することが重要でSAC分類が役に立つこと, 今自分のレベルがどの程度なのか, インプラント手術の難易度を理解するなど, インプラント治療をより安全で確実に行うための手術の難易度に関してSAC分類を用いて講演されました。

④ 若松陽子先生(関西大学法務研究科教授)は「トラブルとならないインプラント治療を行うために」をテーマに, インプラントに関するトラブルの訴状に基づき事例を解説されました。「契約」をしっかりしていれば紛争予防になること, インフォームドコンセントが重要で法的説明は, 治療の特定, 治療法の長所と短所, 代替治療の説明, 副作用および合併症を報告すること, インプラン

トについては書面契約を行うこと, 広報宣伝で特別な補償や保証書を出すと, その責任を負わなければいけないこと, カルテの保管は法的に5年であるがインプラント治療では10年の保存が好ましいなど, 弁護士の立場からインプラント問題について講演されました。

⑤ 渡邊文彦先生(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)は「インプラント専門医習得プログラムについて」をテーマに, 学会では会員の技術の向上を図るために専門医技術向上講習会を開催してきたことおよび, 専門医の必要性について説明されました。患者にとって安全, 安心できるインプラント治療が行われなければならないが, これを行うには補綴や外科, 解剖など広範囲な知識を備えている人が口腔インプラント専門医であること, 研修施設には大学系37施設, 臨床系21施設あり, 各研修施設で100時間以上の研修が行われているなど, 専門医取得方法について説明されました。

5名の講師の方々の講演後に全体質疑を行い, 『『インプラント治療指針』にCTの使用が必須, 必要であるとの記載があり文言の整合性』の指摘, 「ホームページやチラシなどの医療広告について」, 「歯学における社会歯学の位置づけ」等について質疑が行われ, 分科会シンポジウムを終了いたしました。

## 平成24年度 ケースプレゼンテーション試験合格者

吉岡喜久雄, 涌島 学, 川鍋 仁, 井上雄二,  
寺倉 健, 青山淳一, 田中克弥, 永澤義安,  
佐久間啓文, 富田佳好, 清水玄介, 中野浩輔,  
貝淵信之, 若林一道, 大月佳代子, 難波一郎,  
渡辺松芳, 北沢 伊, 島田昌明, 井山禎之,  
藤田 亨, 中島康裕, 河村達也, 上谷智哉,  
犬飼文晴, 新田朋弘, 穂積英治, 平川祐子,  
金崎伸幸, 酒井榮一, 秋山剛久, 安田大勲,  
西 圭, 坂下寿人, 藤原鋼一, 岡野主裕,  
山本修史, 有馬良輔, 奥山淡紅子, 浅見彩路,  
坂口 豊, 白鳥香理, 塩澤誠士郎, 佐藤文昭,  
上西研二, 藤波正裕, 田島暢崇, 吉田 真,  
吉田 恒, 伊藤正紀, 玉置忠宏, 内田光彦,  
田中文晴, 松島寛忠, 土永浩史, 竹市卓郎,

嶋 典子, 榊原 毅, 松山孝司, 篠原憲太,  
俵木 勉, 副島 衛, 佐藤 匡, 森 茂美,  
笹倉裕一, 沖 齊賢, 三堀陽介, 吉本彰夫,  
志村俊一, 三谷明弘, 松本理基, 林 幹太,  
阿久津正輝, 武居良裕, 伊藤 学, 志村公治郎,  
林 健一郎, 河内洋順, 徳丸啓二, 吉松昌之,  
田中栄次, 岩元健剛, 加藤嘉哉, 中村雅之,  
三串雄俊, 長内敬代, 板野 賢, 本郷貴士,  
新名主耕平, 遊佐 浩, 松岡裕樹, 森永大作,  
森岡俊行, 小澤貴三郎, 田村裕司, 田中昭子,  
池谷完治, 勝 喜久, 江崎大輔, 今上英樹,  
渡邊信幸, 前田崇雄, 松元教貢, 庵原英晃,  
山田健太郎, 下川原裕介, 清水真一郎, 柳 献作,  
西谷寿夫, 伊藤寛史, 小澤 亮, 佐々木穂高,



内藤尊文, 井上崇徳, 中原幹雄, 栗原健一, 荻原 道, 森山貴仁, 阿部洋太郎, 今枝明子,  
 小野寺良修, 江崎友大, 山口東吾, 山森翔太, 菅井敏郎, 伊藤真午, 後藤修一郎, 関口 剛,  
 植田智也, 村田幸一朗, 田村友彦, 高橋英敬, 石井通勇, 西 耕作, 飯田 務, 佐々木啓行,  
 石山雄一, 星野 元, 折居恒典, 松田健男, 瀬良郁代, 朝比奈 泉, 豊嶋健史, 宮本哲朗,  
 杉山辰行, 中原正嗣, 福井達真, 佐藤雄大, 奥野幾久, 鳥居秀平, 谷川雄一, 中川雅博,  
 佐々木智美, 今村栄作, 猪又俊之, 廣田育敬, 木村智憲, 林 亨, 油井知雄, 長山英樹,  
 佐野哲也, 石川高行, 森永健三, 工藤 東, 小林靖宜, 秋馬秀成, 木村勝年, 大藪祐子,  
 牧平清超, 河野恭範, 小林 誠, 平 曜輔, 中村貴弘, 作山 葵, 下田隆史, 田中晋平,  
 渋川義宏, 小村国大, 岩田光弘, 平 幸雄, 森川俊彦, 石浦雄一, 森 進太郎, 小林裕史,  
 佐藤正弘, 弘兼典明, 小室美樹, 福留健太郎, 三隅沙緒理, 小澤 誠, 中村雅裕, 奥田祐司,  
 岡野友香, 脇山智子, 葛城範之, 匠原龍太郎, 北川剛至, 小野真司, 勢島 典, 行木亜希子,  
 堤 隆一郎, 林 揚春, 貴治一敏, 飯沼英人, 浦本英二, 稲田信吾, 目黒 恵  
 竹内 正, 柏木宏介, 高梨琢也, 打矢五月, (合計: 211名)

## 新入会者紹介

(平成24年6月7日～平成24年10月25日)

### ▼東北・北海道支部

(北海道) 中山英二, 菅田真吾, 高橋悠子  
 青木美奈, 西尾美和子  
 (青森県) 千葉祐女  
 (岩手県) 狩野隆広  
 (宮城県) 鈴木欧介, 五十嵐博恵, 本多真由美,  
 赤塚 亮, 松村 賢, 横田 聡  
 (秋田県) 穂積 憲, 城 盛太郎, 長野 玄,  
 菊池幸恵  
 (山形県) 海藤秀美  
 (福島県) 石川伸一, 伊波良将, 西本秀平,  
 斎藤理乃, 谷野 康, 伊藤 隼

### ▼関東・甲信越支部

(茨城県) 新谷佳子, 堤 浩一郎, 林 琴美,  
 河合弘行  
 (栃木県) 中野貴覚, 五十嵐尚美, 豊田 亮  
 (群馬県) 加藤 努, 小林郁実  
 (埼玉県) 飯島洋介, 大澤由賀, 押岡弘子,  
 根本 聡, 大澤健祐, 渡邊一史, 長谷晃夫,  
 古川良作, 島田成章, 千葉真渡, 藤原敬子,  
 藤本功仁, 石濱 隆, 黄司優華, 飯野孝一郎,  
 宮崎 啓, 阿部真子, 東 竜二  
 (千葉県) 森 このみ, 中島 啓, 秋葉幸平,  
 石川 栄, 仲主佐恵子, 紀野仁志, 東 洋平,  
 北浦宏明, 内田僚一郎, 喜田晃一, 澁谷崇平,  
 秦 章, 由宇宏基, 松山昌弘, 遠山雄太,

阿部公彦, 菅野岳志, 河村俊紀, 石橋孝謙,  
 小山隼平  
 (東京都) 赤崎ゆかり, 井上 豪, 馬場安彦,  
 志賀 博, 中島朋子, 齊藤曜久, 上丸 英,  
 臼井龍一, 美島健二, 大越聡一郎, 三谷典子,  
 矢端恒秋, 栗林進一, 佐藤瑞希, 甘利佳之,  
 豊嶋悠輔, 吉田雅幸, 倉治真夏, 川添香緒里,  
 鈴木やよい, 堀口逸子, 西沢浩昭, 鈴木純子,  
 有輪芳明, 酒井憲一郎, 岡田百合子, 白鳥綾子,  
 市川俊也, 能本美智子, 門倉美樹, 瀬戸一郎,  
 能本 実, 尾島梨沙, 東儀季成, 山頭 聡,  
 今野 彩, 岩崎玲二, 井上 博, 和田信宏,  
 田原亜里夫, 大出麻依, 新渡戸康希, 田山道太,  
 濱田裕嗣, 牧野盛太郎, 高橋美輝, 前島昌世,  
 山本松男, 滝口 尚, 岡田征彦, 茂木 悠,  
 大越良隆, 栗原圭子, 中川哲夫, 星野真理江,  
 森澤絵里, 秋山祥代, 村口 神, 八木大輔,  
 川名陽子, 杉田洋一, 河本清司, 古瀬信久,  
 藤波弘州, 西本加容子, 山田秀典, 仁井麻有子,  
 佐々木かおり, 大平貴士, 三井智治, 菊地桃代,  
 長部妙子, 柳田泰志, 風間 洋, 田中 愛,  
 飯田隆文, 長崎理佳, 鈴木瑛一, 松本知也,  
 馬淵洋一, 荻原拓郎, 村上絵美  
 (神奈川県) 岡本昌裕, 中西未来, 田中裕三,  
 大日方美保, 矢崎健一郎, 田中 誠, 高橋 央,  
 多名部恵子, 小松原由紀恵, 高根元恒, 須藤真行,

安齋顕吾, 白井麻衣, 志村朋子, 加藤幹康, 高尾賢太郎, 菅野 剛, 都築正史, 岡 雄造,  
 笠間奈緒, 阿久澤信人, 溝上智子, 飯沼美波, 松岡 隆, 上谷智一, 田邊計知, 下元拓哉  
 多名部貴博, 中島醇二, 山本海生, 泉 雄一, (兵庫県) 山本清作, 岡田知子, 原 淳一郎,  
 今村圭一郎, 工藤 仁, 萩原 誠, 木下龍二郎, 坂口博哉, 粟田隆史,  
 (新潟県) 赤坂定威, 小林徹也, 高橋 恵, 牛嶋星地, 大島健生, 荒垣一彦, 早田 勲,  
 富田 智, 井田貴子, 江口香里, 上垣 智, 岸本憂太, 栃本裕子, 森本啓介,  
 (山梨県) 手塚未来, 森本健太, 高瀬 豊, 赤尾聡一, 記村 優,  
 (長野県) 小林響子, 福岡愛理, 南里薫潔, 田中紀行, 池田伸次  
 米田紘一, 白金朋子, 塩原数馬, 武井哲兵, (奈良県) 栗生 直, 下村忠弘, 貞光謙一郎  
 小林 浩, 宮坂樹理, (和歌山県) 寺本恵子, 佐武正朗, 山崎多恵,

▼中部支部

(岐阜県) 細野薫愛, 高橋哲平, 太田昌秀  
 (静岡県) 遠藤寛則, 河合啓太, 竹内公生,  
 牧野真由美, 望月浩幸, 石井 圭, 松本 晃,  
 片岡洋平, 松本律子  
 (愛知県) 吉田智洋, 上田早苗, 布目将之,  
 今北正明, 岡井 誠, 中村大輔, 佐藤信明,  
 寺町由貴, 宮原香織, 知久裕子, 日比野佑規,  
 細川史磨子, 村瀬貴之, 石川愛子, 片山英美,  
 東松信平, 山本康博, 東松修平, 坂口晃平,  
 五十川 泰, 小林 倫  
 (三重県) 宮澤晋矢, 林 徹, 瀧川彰範

▼近畿・北陸支部

(富山県) 能登善弘  
 (石川県) 松本秀彦, 山崎麻奈, 宮森和也,  
 高橋善昭  
 (滋賀県) 松原 聡, 上野貴生  
 (京都府) 藤田英樹, 村上佳宏, 中村浩樹,  
 山田怜美, 福田智之, 中村 幹, 田中利哉,  
 大原廣之  
 (大阪府) 松本真理子, 橋本英敏, 熊野和博,  
 下元明子, 森光 誠, 金田勝信, 島原 淳,  
 廣岡智美, 山戸結葉, 大野直人, 迎井稚里,  
 吉富千恵, 荒木 悠, 豊島梨花, 中島世市郎,  
 橋本齐以子, 田中智子, 森田洋輔, 勝田麻愛,  
 阿部一成, 水野博之, 山田高久, 中谷 徹,  
 武田邦太郎, 二見育代, 大野真己子, 森永昌義,  
 濱田和恭, 安井麻美, 田中宗亮, 松本孝一,  
 瀧本智朗, 小石逸平, 猪俣千里, 秋森由佳,  
 西田侑加, 橋本卓弥, 前川典之, 谷口 馨,  
 木村吉宏, 三光寺利彦, 藪内崇督, 若林孝宏,  
 境 美津子, 宮本安智, 遠藤輝久, 大倉麻紗子,  
 西奥和雄, 中田朋宏, 岡田正博, 裏口真也,  
 雨堤真菜, 江並大和, 石崎好洋, 福居 希,

▼中国・四国支部

(鳥取県) 高野淳人  
 (岡山県) 白髭智子, 平田孝治, 滝川雅之  
 (広島県) 杉原美加子, 杉原良昭, 松井加奈子,  
 日野泰樹  
 (山口県) 重中政信  
 (徳島県) 荒木幸次, 檜垣宜明  
 (香川県) 新枝誉志也, 檜 圭一, 白崎 俊,  
 高橋亜矢子, 本多慎司, 宮脇守男, 都倉達生,  
 澤井 史  
 (愛媛県) 外城崇嗣, 池本あゆみ, 松原正和  
 (高知県) 佐竹秀太, 前田憲哉

▼九州支部

(福岡県) 久保田武敏, 藤川沙織, 輕部 令,  
 西田くらら, 藤永賢亮, 香月俊彦, 山口愛美,  
 岸 哲也, 原 健, 森光裕樹, 坂本義浩,  
 原田千恵子, 原口理絵, 瀬尾 皓, 尾崎和久,  
 今村英之, 松尾栄治, 脊川 敦, 福田麻衣子,  
 大多和昌人, 川上伸大, 中原慶三, 吉田 亨,  
 佐々木美智子, 水町栄美理, 筑井 徹  
 (佐賀県) 田代 剛, 山下高明, 古賀智美,  
 古賀エリカ  
 (長崎県) 佐藤絢子, 篠原綾乃, 吉田沙織,  
 六反田 賢, 山田慎一, 野田さわこ  
 (熊本県) 平島将臣, 谷元栄仁, 永井孝信,  
 國崎貴裕, 山田宗敬, 石本 薫, 渡邊祐康,  
 山城里奈, 檜垣 薫, 岩下菜々, 山隈彩加  
 (大分県) 蛭谷文一, 尾崎洋美, 安部 徹  
 (宮崎県) 北林安衣, 神村由紀  
 (鹿児島県) 菅原はるか  
 (沖縄県) 新垣 誠

▼外国

西原繁太

(以上415名)

**Dental USA**  
Exceptional Quality & Value

歯牙を把持する側 (Bear Claw) と 支板となる側 (Pad) の先端で  
**歯牙を挟むだけで、揺さぶらずに 抜歯を行います!**  
**ハンドルを握るだけ!** 周囲組織の破壊を最小限に抑え、インプラントの即時埋入を有利にします。

**MISCH**  
**POWER ELEVATORS**  
 REVOLUTIONARY FULCRUM EXTRACTION TECHNOLOGY  
 Elevating Dentistry One Tooth At a Time

## ミッシュ パワーエレベーター



開発者: Dr. Carl Misch



Bear Claw

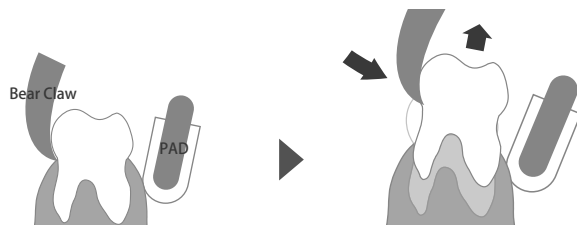
Pad



Pad側は自在に回転し、面としてポイントを支えます。



ミッシュ  
 パワーエレベーター セット



ミッシュパワーエレベーター先端のBear Claw側とPAD側で歯牙を類舌的につかみます。

さらに挟むと、強い力を用いずに、揺さぶることもなく抜歯されます。PADは支板となるとともに、歯槽骨を保護する働きもあります。

製造販売元 / 発売元

お問い合わせください。

**IMPLATEX** 株式会社 **インプラテックス**  
 いつも、となりに

本社: 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-33-19 YDM日暮里ビル  
**TEL.03-5850-8555 FAX.03-5850-8505**

製造元

**Dental USA** (米国)  
 Exceptional Quality & Value

届出番号: 13B1X00053A80002

## 目次

新年のご挨拶	1
第42回 学術大会報告	2, 3
第43回 学術大会案内	3
第42回 学術大会受賞者紹介	4
平成24年度 名誉会員紹介	4, 5
平成24年度 学会特別功労賞紹介	5, 6
平成24年度 学会優秀論文賞	6, 7
平成24年度 学会奨励論文賞	7, 8
平成24年度 優秀研究発表賞	8~11
平成24年度 デンツプライ賞	11~14
第11回 口腔インプラント専門医 臨床技術向上講習会報告	14, 15
第22回 日本歯科医学会・分科会 シンポジウム報告	15, 16
平成24年度 ケースプレゼンテーション 合格者紹介	16, 17
新入会者紹介	17, 18
広告	19, 20
目次	20

## 広報委員会からのお知らせ

前年度に引き続き春日井昇平(東京医科歯科大学)が委員長を務めます。現在の広報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：春日井昇平

副委員長：市川哲雄

委員：五十嵐俊男, 北川昇,  
嶋田淳, 十河基文, 土屋直行,  
内藤宗孝, 山内六男

今後とも広報委員会は、ニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致しますので宜しくお願い致します。ご意見、ご要望等ございましたら、以下の連絡先にご連絡ください。

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学インプラント・口腔再生医学 春日井昇平

電話：03-5803-5934

ファックス：03-5803-5934

メールアドレス：kas.mfc@tmd.ac.jp

インプラント学会

検索



新・表面性状 "Anchor surface" が  
良好なオッセオインテグレーションを実現。

GENESiO Plus  
SETiO Plus

GC IMPLANT Re

株式会社 ジーシー  
高度管理医療機器 223008ZX00099000 ジーシー スクリューインプラント Re V 2012年11月現在



ASTRATECH DENTAL  
Get inspired

アストラテック インプラントシステム  
オッセオスピード  
インプラント

承認番号 207008Z000070000	届出番号 1381X00020000003
208008Z000033000	1381X00020000004
208008Z000034000	1381X00020000005
223008Z100016000	1381X00020000007
224008Z100003000	1381X00020000019
224008Z00029000	1381X00020000020
223AMZ00003000	

ASTRATECH DENTAL  
Get inspired

製造販売業者 デンツプライIH株式会社 〒104-0031 東京都中央区京橋1-3-1 八重洲口大栄ビル12F  
TEL:03-3243-5055 FAX:03-3243-5057 http://www.astratech.jp